

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 5 区分
 【発行日】平成 24 年 8 月 30 日 (2012.8.30)

【公表番号】特表 2010-507026 (P2010-507026A)
 【公表日】平成 22 年 3 月 4 日 (2010.3.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2010-009
 【出願番号】特願 2009-532691 (P2009-532691)
 【国際特許分類】

D 0 1 F 1/10 (2006.01)

D 0 1 F 6/46 (2006.01)

A 4 1 D 31/00 (2006.01)

【F I】

D 0 1 F 1/10

D 0 1 F 6/46 A

A 4 1 D 31/00 5 0 1 Z

A 4 1 D 31/00 5 0 3 H

A 4 1 D 31/00 5 0 3 P

A 4 1 D 31/00 5 0 3 Q

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 24 年 7 月 13 日 (2012.7.13)
 【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

フィラメントおよび / またはステープル繊維を含む耐切創系であって、前記フィラメントおよび / またはステープル繊維が、前記系の耐切創性を改善するための硬質成分を含む系において、

前記硬質成分が、平均径が最大 $25\ \mu\text{m}$ の複数の硬質繊維であり、前記硬質繊維が、ガラス、鉱物、または金属から製造されており、前記硬質繊維の少なくとも一部のアスペクト比が少なくとも 3 である、系。

【請求項 2】

前記硬質繊維の平均径が、最大 $20\ \mu\text{m}$ であることを特徴とする、請求項 1 に記載の系。

【請求項 3】

前記系が、前記硬質繊維を 0.1 ~ 20 体積 % 含むことを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の系。

【請求項 4】

前記硬質繊維が、紡糸繊維であることを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の系。

【請求項 5】

前記系を製造するためのポリマーとして、超高分子量ポリエチレンが使用されることを特徴とする、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の系。

【請求項 6】

前記硬質繊維の製造に使用される材料が、少なくとも 2.5 のモース硬度を有する、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の系。

【請求項 7】

前記フィラメントおよび／またはステープル繊維の繊維が、フィラメント 1 本当たり 1 5 d t e x 未満である、請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の系。

【請求項 8】

請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の系の一本以上の単系、及びさらにガラス、金属もしくはセラミックの系、線もしくは撚り系の一本以上の単系を含む複合系。

【請求項 9】

金属線からなる芯の周囲に撚られた請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の系の単系を含む、請求項 8 に記載の複合系。

【請求項 10】

請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の系、または請求項 8 もしくは 9 に記載の複合系を含む布帛。

【請求項 11】

請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の系、または請求項 8 もしくは 9 に記載の複合系を含む製品。

【請求項 12】

前記製品が、人体を切創から防護するための衣類である、または突刺しによる負傷から防護するために用いられることを特徴とする、請求項 11 に記載の製品。

【請求項 13】

前記製品が、手袋、前掛け、ズボン、手首カバー、腕カバー、トラックのサイドカーテンおよびターポリン、ソフトタイプの旅行かばん、家具用布地、空輸貨物コンテナ用仕切り及び消防用ホースの外被からなる群より選択される、請求項 11 に記載の製品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0041

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0041】

本発明の範囲には、いわゆる複合系およびこのような系を含む製品も包含される。このような複合系は、例えば、複数の硬質繊維を含むフィラメントおよび／またはステープル繊維を含む 1 本以上の単系、ならびにガラス、金属、もしくはセラミックの系 (y a r n)、線 (w i r e) もしくは撚り系 (t h r e a d) の 1 本以上のさらなる単系を含む。複合系の例としては、金属線からなる芯の周囲に撚られた本発明による単系を含む系がある。